『NHK年鑑』を利用される方に

『NHK年鑑』は，1931年に『ラヂオ年鑑』として創刊され，テレビ放送の始まった翌年の1954年に『NHK年鑑』と改称されました。

太平洋戦争中と終戦直後の３年間（1944～1946年）休刊した（1947年版でまとめて掲載）ほかは毎年発行して放送の歩みを体系的・継続的に記録し続けてきました。

本書2018年版は，原則として2017（平成29）年４月～2018（平成30）年３月の動きを対象に記録しています。

本書の主なポイントは以下のとおりです。

○東日本大震災関連については，引き続き，第１部「2017年度の動き」の第３章で，復興に向けた動き，原発事故のその後，NHKの取り組みなどを掲載しました。

○新たな可能性を開く放送･サービスとして「４K･８Kスーパーハイビジョン」「インターネット同時配信」の動向について，第１部「2017年度の動き」の第２章に掲載しました。

刊行するにあたって，ご協力いただきました多数の執筆者，また，編集関係の各位に対し厚く御礼申し上げます。

……

・NHKが取り組んでいる環境経営（エコ）の一環として，2018年版でも再生紙と「Non-VOCインキ」（大気汚染の原因となる鉱物系溶剤が１％未満のインキ）を使用しています。

・『NHK年鑑』のNHK関係部分については，下記のアドレスでご覧いただけます。

http://www.nhk.or.jp/bunken/book/

表記方法など

①表記は，原則として『NHK漢字表記辞典』（新常用漢字表に対応），『NHKことばのハンドブック　第２版』に準拠した。

②年の表示は，原則として西暦で統一した。

③固有名詞（社名など）の漢字は，人名以外は，原則として新字体で統一した。

④企業名，チャンネル名等については適宜，通称・略称を使用した。

⑤番組名には『　』，シリーズ名や個別のタイトルには「　」を使用した。

例：『NHKのど自慢』

『連続テレビ小説』「ひよっこ」

⑥番組解説等については，次の記号を使用した。

総合テレビ＝G	ラジオ第１＝R1
Eテレ＝E	ラジオ第２＝R2
BS1＝BS1	FM放送＝FM
BSプレミアム＝BSP	テレビ国際放送＝T国際
スーパーハイビジョン＝SHV	ラジオ国際放送＝R国際

⑦NHK関連団体については次のように略称した。

NEP	＝NHKエンタープライズ
NED	＝NHKエデュケーショナル
Gメディア	＝NHKグローバルメディアサービス
JIB	＝日本国際放送
NPN	＝NHKプラネット
NSC	＝NHKサービスセンター

⑧「放送日誌」の作成には，以下を参考にした。

『新聞研究』『民放』『放送研究と調査』

⑨視聴率は，特に断らない限り「ビデオリサーチ調べ，関東地区」を使用した。

⑩外貨建てに併記した円建ての金額は，その出来事が起きた時点のレートによるものである。